

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名 (ふりがな)	熊田孝恒 (くまだたかつね)	所属	産業技術総合研究所
研究集会等名称	技術心理学研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 25名 (うち認定心理士 1名) 非会員 30名 (うち認定心理士 0名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>実験心理学的知見及び技術の産業・商業へのニーズを明確にし、今後の心理学研究の発展可能性を議論するため、研究会を行った。2011年度は下記に示した2回の定例研究会(第5,6回)を開催し、また日本心理学会第75回大会にてワークショップを行った。定例研究会の開催案内は、2009年度に作成した当研究会活動報告用のホームページ (http://techpsy.jp) 及び、MLで配信し、広く参加者を募った。以下に概要を記す。</p> <p>定例研究会 ・第5回技術心理学研究会 日時：2011年7月30日 13:00-16:00 場所：千葉市 Qiball 一般発表 (個人報告) 崔庭瑞、川瀬絢子、李志炯、王斌、小山慎一、日比野治雄 (千葉大学大学院工学研究科) 「実験心理学的手法による医薬品選択行動の評価：安全の向上を目指して」</p> <p>和田有史・増田知尋・村越琢磨 (独) 農研機構食品総合研究所 「質感視知覚研究を応用した食品視覚品質の数値化に向けて」</p> <p>須藤智 (静岡大学)・熊田孝恒 (独) 産業技術総合研究所 「現実場面での情報機器の使いやすさと認知的加齢の関係について－なぜ、券売機は使いにくいのか？」</p> <p>緒方啓史 (株式会社 山武, 東京大学 先端科学技術研究センター)・ 須藤 智 (静岡大学)・熊田 孝恒 (独) 産業技術総合研究所 「加齢による認知機能の低下は、ICT機器を用いた就労作業にどのように影響するか? ～ビルの中央監視盤のデザイン改善を目指して」 参加者数：20名</p>		

・第6会技術心理学研究会

日時：2012年2月22日 14:00-17:30

場所：キャンパスイノベーションセンター東京 広島大学会議室

講演

大倉典子（芝浦工業大学）

「わくわく感測定の課題」

ショートトーク

入戸野 宏（広島大学大学院総合科学研究科）

「行動科学による「かわいい」研究の射程」

朴ソラ¹⁾、増田知尋²⁾、村越琢磨²⁾、木村 敦³⁾、

小山慎一¹⁾、日比野治雄¹⁾、和田有史²⁾

¹⁾千葉大学大学院工学研究科デザイン心理学研究室、

²⁾（独）農研機構食品総合研究所、³⁾東京電機大学情報環境学部

「残留農薬に関する情報デザインの検討」

村越琢磨、増田知尋、和田有史（（独）農研機構 食品総合研究所）

「複数個体の魚の鮮度判断に対する輝度分布変数の効果」

参加者数：22名

研究会・学会等での活動

・日本心理学会 第75回大会 ワークショップ

「技術心理学：実学としての実験心理学3 ―産業へアプローチの最先端―」

日時：2011年9月17日 15:00-17:00

場所：日本大学

企画者

熊田孝恒（（独）産業技術総合研究所）、日比野治雄（千葉大学）、

永井聖剛（（独）産業技術総合研究所）、

和田有史（（独）農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所）

司会者

和田有史（（独）農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所）

話題提供者

望月寛子（（独）農業・食品産業技術総合研究機構）

神宮英夫（金沢工業大学）

原田悦子（筑波大学）

日比野治雄（千葉大学）

永井聖剛（（独）産業技術総合研究所）

研究会、学会ワークショップとも、心理学領域の研究者のみならず、工学系の研究者及び企業の商品開発に携わっているメンバーからも参加があり、実験心理学の研究成果の発信及び他領域及び社会へ貢献するための方法を考えるための有意義なディスカッションの場となった。